

倭文庫四拾七編

上

~ 13
3785
93



門へ13
 3785
 93

家満 戸又庵

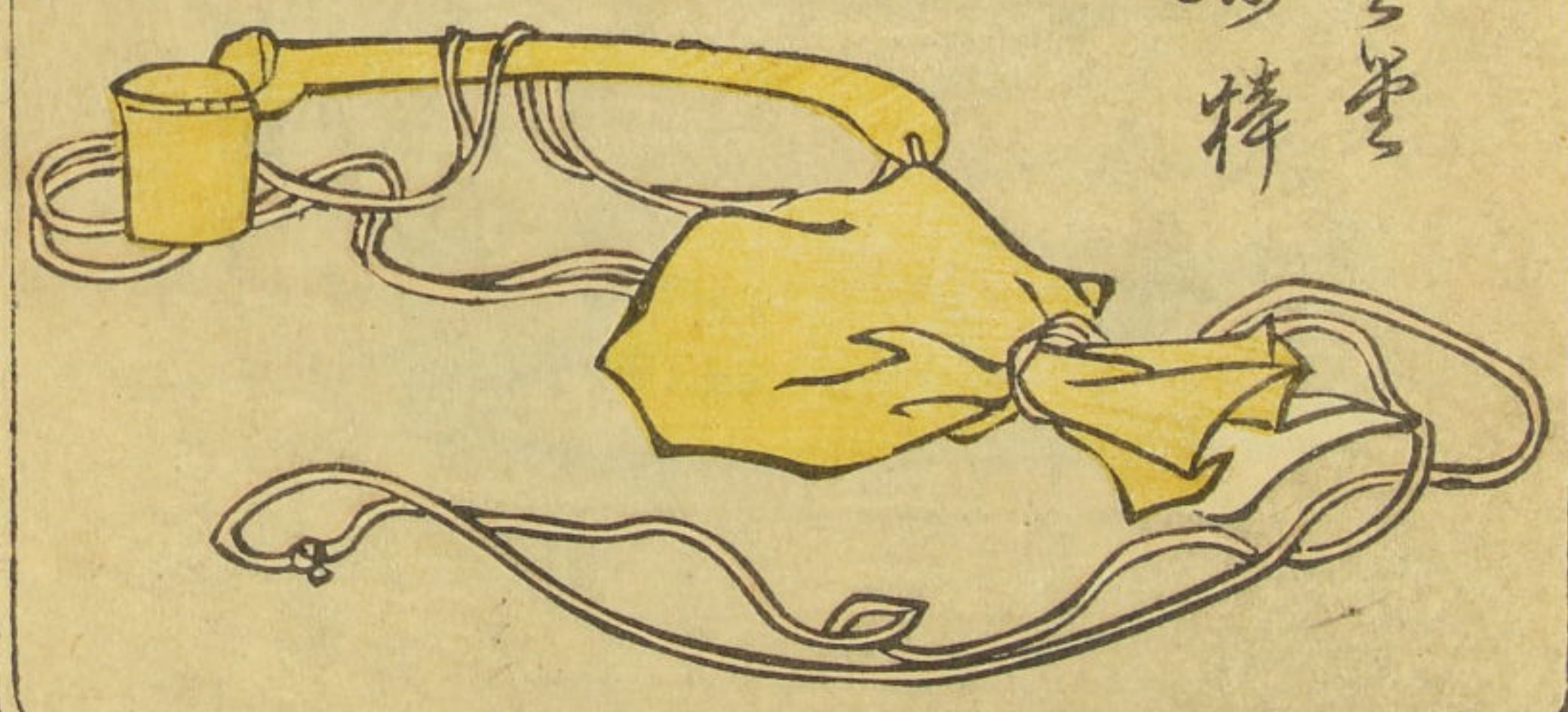
綿重堂
 壽梓

四拾七編

上之卷

意賀さく

國貞志のく



一

釋迦八相倭文庫四拾七篇序

夫迦蘭陀長者須達長者の傳の豫め中本起經毘

奈耶律雜譬喻經。雜寶藏經。十誦律。等を別書

倭美人史をのぞきだす妙方便戲真珠卷をこまに

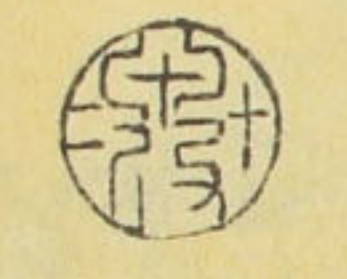
遂に四拾七功德も如來に劣らぬ舍利弗の捕術の

一段の神通力士を擬り遺ふるはる知恵も猛ど

後編の續く御覽に入

後編の續く御覽に入

万延二拾
 辛酉初春



万亭應心加具誌





優闐大王の
勅命ふらふ
毘首天
娑摩
天
赤梅
擅をて
世尊の影像を
一刀三禮して刻めよ
此靈像三國小傳
今日本嵯峨の
新尊是あり

作る屋四一



法皇御合加藍園



○給孤獨長者須達多
 十八億の黄金と地敷敷て
 祇陀太子の園を買求
 伽藍を建立して世尊に
 是を祇園
 精舎とす
 獻む

優文庫四十七



木下入車四一七



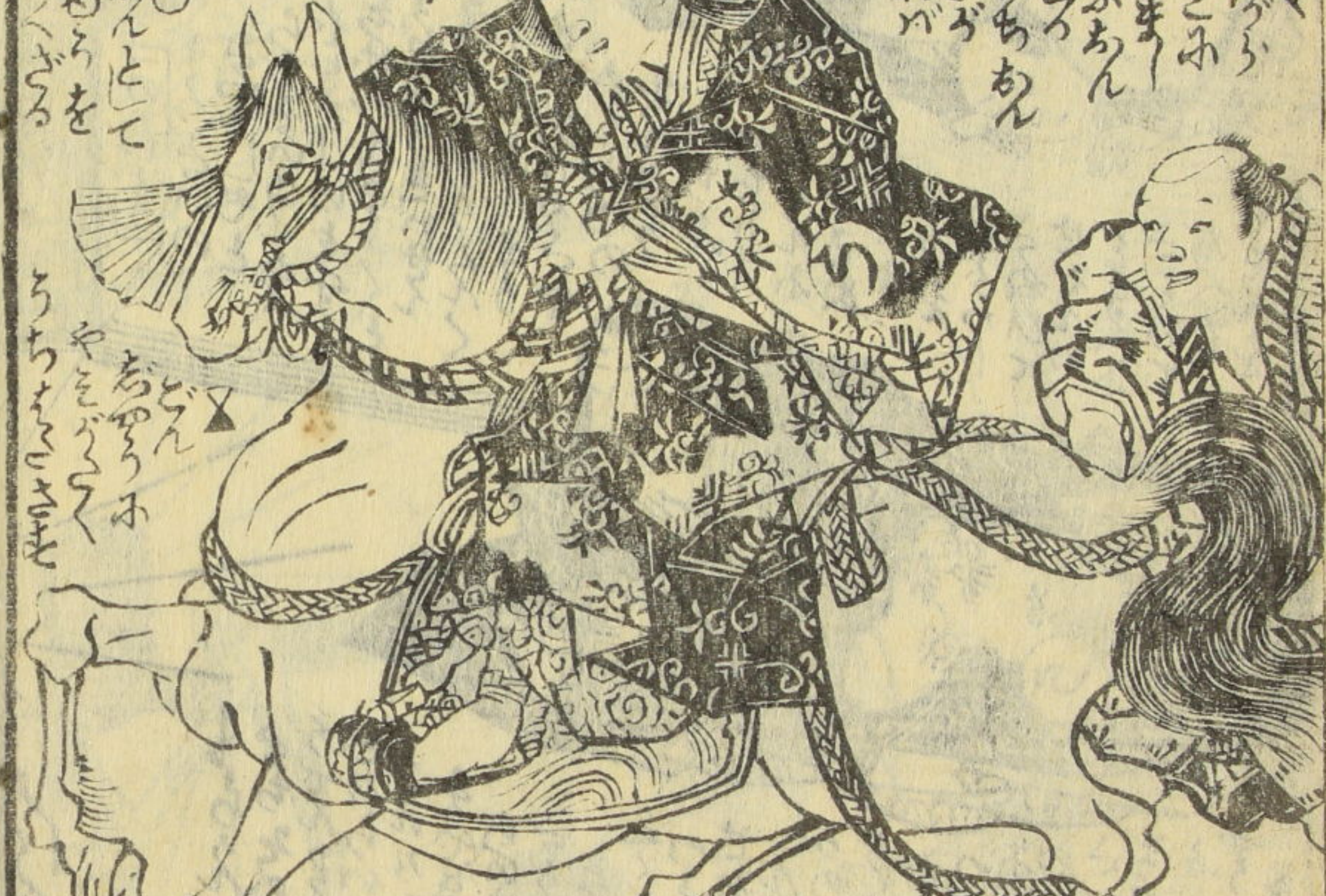
佐々木信

うらやまのせいふあつて
せうめいげんせふあつて
つれづれとせうめいげん
まかすつれづれとせうめい
そのつれづれとせうめい
あつてあつてあつてあつて
ことあつてあつてあつて
うらやまのせいふあつて
せうめいげんせふあつて
つれづれとせうめいげん
まかすつれづれとせうめい
そのつれづれとせうめい
あつてあつてあつてあつて
ことあつてあつてあつて



うらやまのせいふあつて
せうめいげんせふあつて
つれづれとせうめいげん
まかすつれづれとせうめい
そのつれづれとせうめい
あつてあつてあつてあつて
ことあつてあつてあつて

うらやまのせいふあつて
せうめいげんせふあつて
つれづれとせうめいげん
まかすつれづれとせうめい
そのつれづれとせうめい
あつてあつてあつてあつて
ことあつてあつてあつて



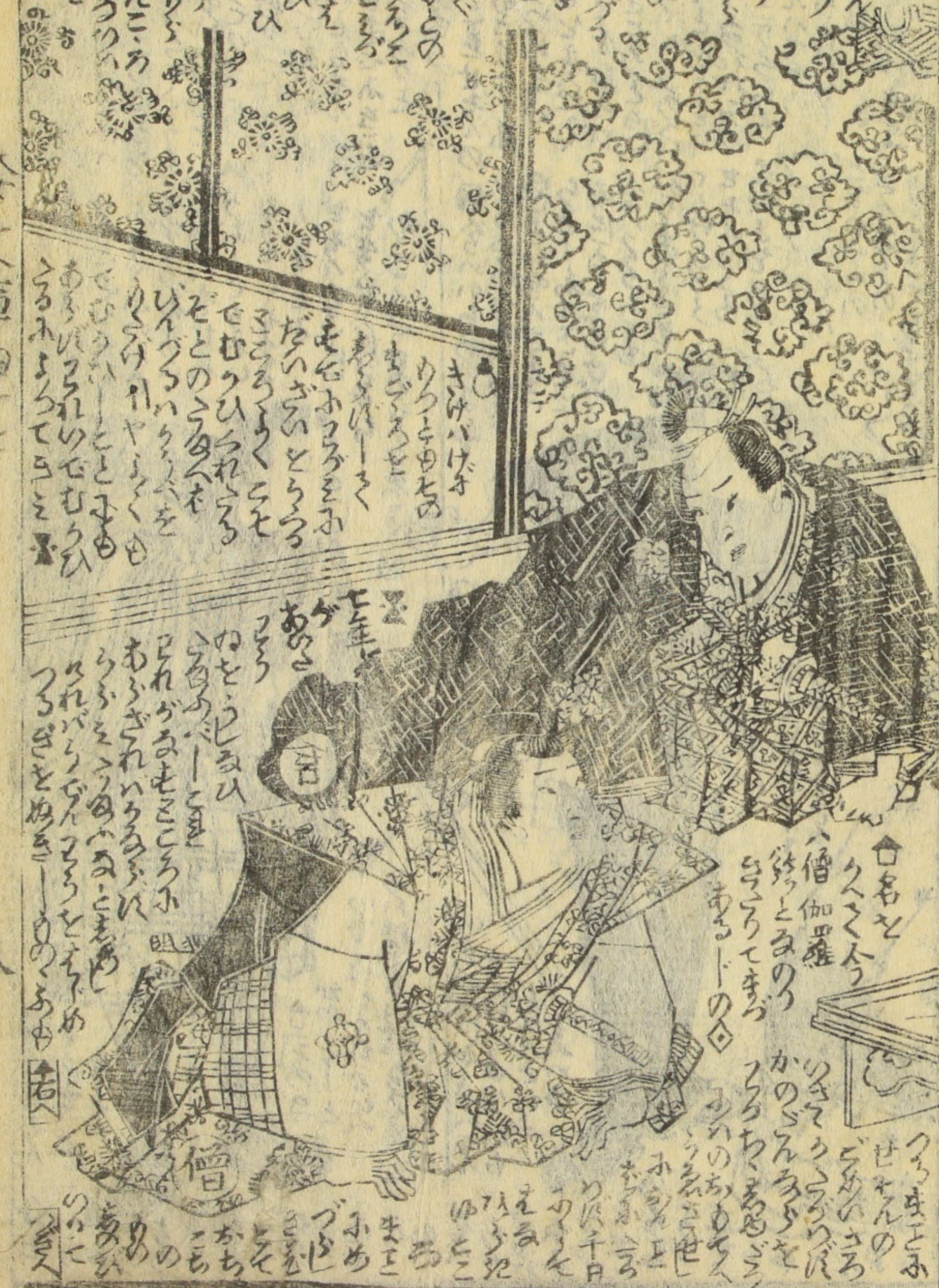
うらやまのせいふあつて
せうめいげんせふあつて
つれづれとせうめいげん
まかすつれづれとせうめい
そのつれづれとせうめい
あつてあつてあつてあつて
ことあつてあつてあつて

おのれをよめとの身んか
あつとと

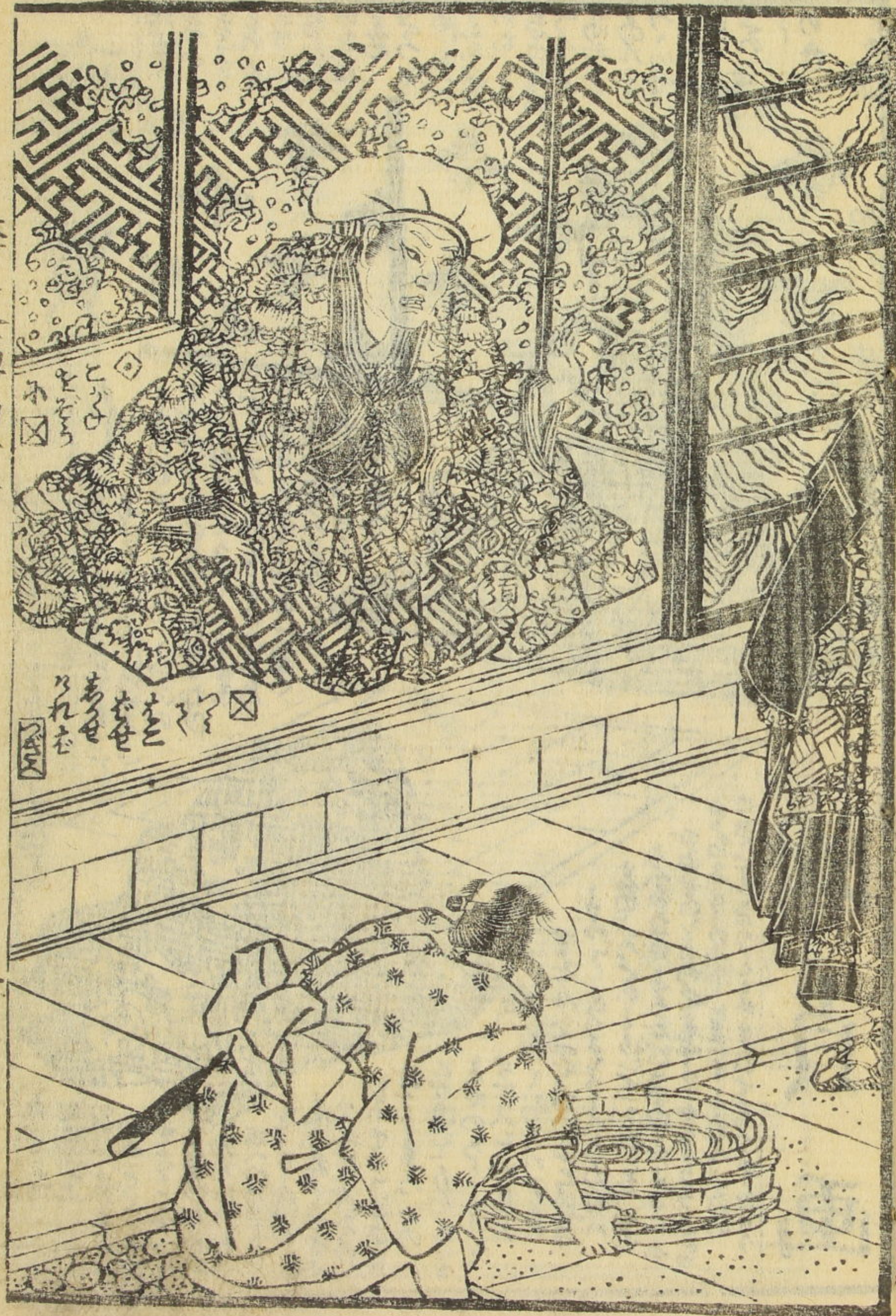


ちやうとよめめん
つらうとよめめんとぞ
せけんへごのめんとぞ
ねうひられよと
たのこらばつらう
ごちやうとよめめん
ふくうひれよとぞ
よせけんひれよとぞ
さうとよめめんとぞ
うやまひつ
まがかつつ
こらうとよめめん
いらせうとよめめん
さうとよめめんとぞ
なうとよめめんとぞ
とちとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ
のうとよめめんとぞ
えいせつとよめめんとぞ
さうとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ
あんめんとぞ
さうとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ

おのれをよめとの身んか
あつとと



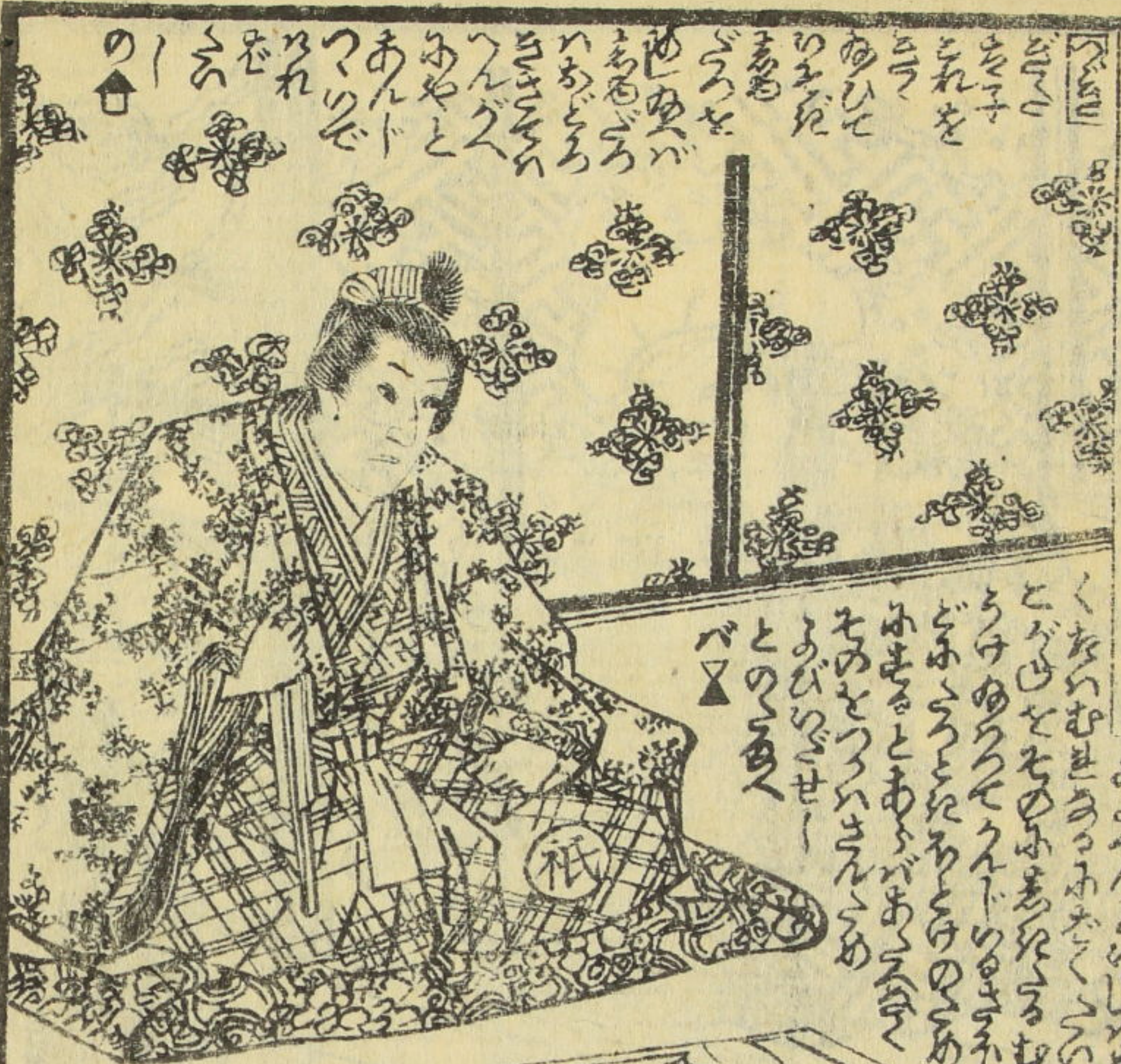
ちやうとよめめん
つらうとよめめんとぞ
せけんへごのめんとぞ
ねうひられよと
たのこらばつらう
ごちやうとよめめん
ふくうひれよとぞ
よせけんひれよとぞ
さうとよめめんとぞ
うやまひつ
まがかつつ
こらうとよめめん
いらせうとよめめん
さうとよめめんとぞ
なうとよめめんとぞ
とちとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ
のうとよめめんとぞ
えいせつとよめめんとぞ
さうとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ
あんめんとぞ
さうとよめめんとぞ
ごらうとよめめんとぞ



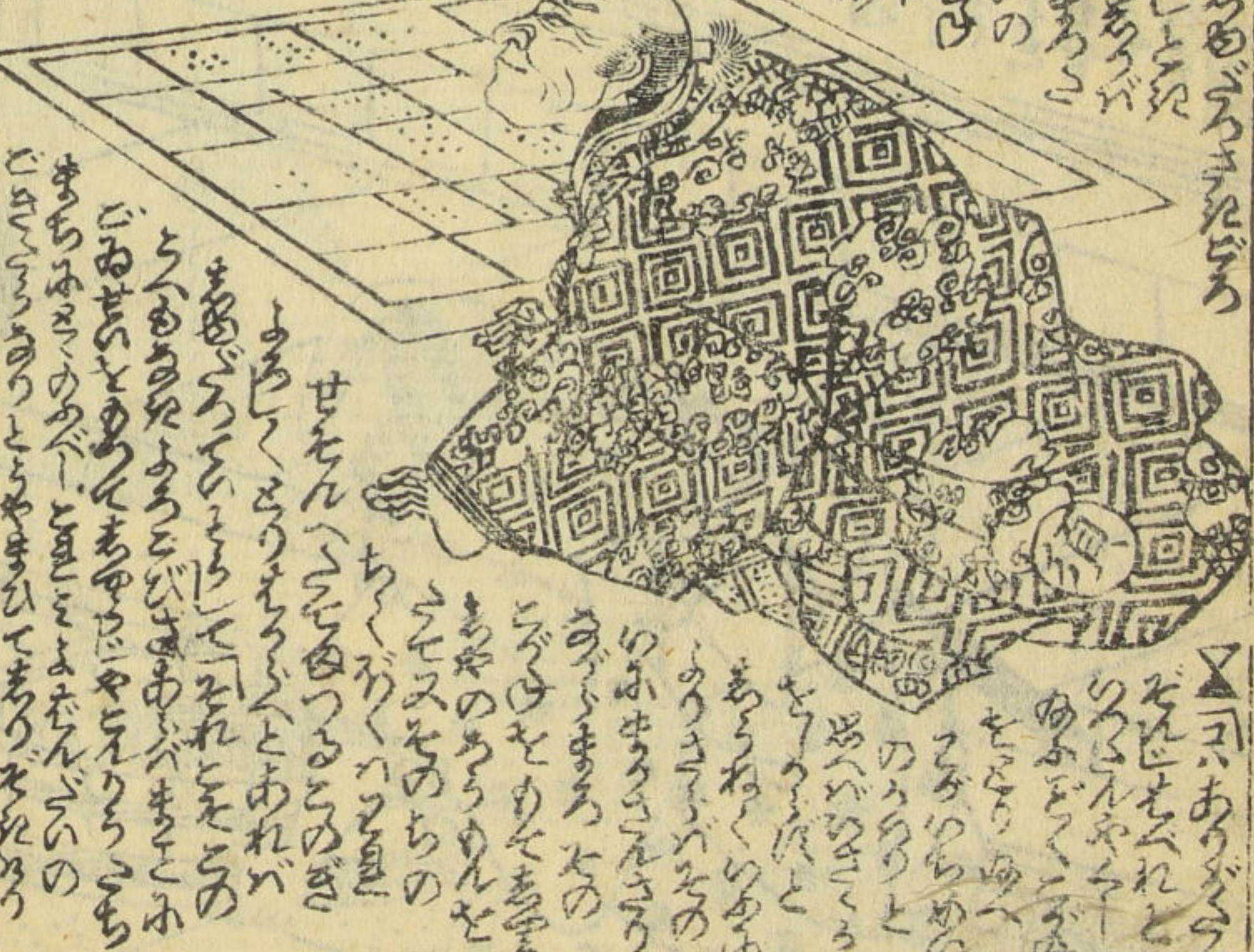
回萬延二年辛酉新春板目錄回

畫繪艸紙本類 上州屋重藏版	常磐津懷中本 初編二編 三編四編 小中巻七 孫付あり 極上の書	淺草みやげ 五編十返舎一九 同	花山吹百人女郎 初編柳亭種彦 二編同	昔語小栗實説 二編松亭金水 三編同	重井菱漆別小紋 編掲為永春水 同	倭文庫 四十六編四十七編 四十八編四十九編 萬事應賀作 一陽齋豊國画
------------------	--	-----------------------	--------------------------	-------------------------	------------------------	--

應心賀作



國貞画



このしふちのつらみちのまはるはたせき
つらみちのまはるはたせき
つらみちのまはるはたせき
つらみちのまはるはたせき
つらみちのまはるはたせき

せせんへんをぬつるためさ
あつてつらみちとあれが
あつてつらみちとあれが
あつてつらみちとあれが
あつてつらみちとあれが
あつてつらみちとあれが

